

# た

**だいいっしゅうしゅうきゅうし 第1種使用休止** 冬期に限って使用する排雪用の機関車や暖房車のように、車両の運用上の必要その他によって比較的長期にわたって(30日以上)使用を休止する場合の使用休止種別をいう。第1種使用休止した車両には、次のような機能または強度の保持のための手配を行なうことになっている。

- (1) しゅう動部・みがき面等で腐食を生ずるおそれのある部分には、さび止め油を塗布する。
- (2) ボイラには腐食防止薬品の投入等防食の手配を行なうとともに、冬期は排水する。
- (3) 窓・ふた・とびら類等開閉できる部分は全部閉そくするとともに、部分品で盗難、紛失のおそれのあるものは取りはずして保管する。
- (4) 凍結のおそれのある部分、防じん、または防湿の必要のある部分には、おおいを施す等必要な手当を行なう。
- (5) 蒸気機関車・ディーゼル機関車および暖房車の煙突には、おおいを施す。

(佐々木 康登)

**だいがくいたくけんきゅういん 大学委託研究員** 大学委託研究員は業務能率の向上と職場士気の高揚を旨とし、選抜により部外の大学に1箇年間派遣して、業務に必要な理論および技術を研究させるもので、職員局長が命ずることになっている。

大学委託研究員になるには、選考試験に合格しなければならないが、その受験資格として、次の各号の条件を備えていなければならない。

- (1) 3年以上日本国有鉄道部内に勤務し、その成績が優秀で、かつ身体が健全であって、年齢35才未満の者。
- (2) 短期大学または旧制専門学校卒業程度の学力を有する者。
- (3) 正規教育の各課程各科の卒業者または修了者にあつては、卒業または修了後1年以上実務に従事した者。

選考試験は学業試験および人物考査となっており、学業試験科目は次のとおりである。

- (1) 事務関係 一般教養・英語
- (2) 技術関係 工学一般(電気工学・機械工学・土木工学および建築工学のうち1科目選択)・英語

この制度は昭和31年度から実施されており、昭和40年度の採用人員も含めて、現在まで146人が大学委託研究員となっている。

(大原五郎)

**だいしゃ 台車(DT 200)** この台車は常用速度200km/hという新幹線車両に取り付けられた高速度性能をもち、試作車に取り付けられた6種類の台車を基礎として設計、製作された。

DT 200 形台車の特徴としては



DT 200 形台車の外観

- (1) 空気ばねの横剛性を利用して、揺れまくらつり機構を廃止したこと。

- (2) 空気ばねの取付位置を非常に高くし、車体のローリングの改善をはかっていること。

- (3) 空気ばねに\*特殊ダイヤフラム形空気ばねを利用し、車体の片寄りを防止したこと。

- (4) 軸箱の支持部に全くしゅう(摺)動部のない\*IS式軸箱支持装置を採用し、ゴムブッシュのゴムのばね定数の選び方により、適当前後左右弾性をささえ、だ(蛇)行動に対する改善をはかっていること。

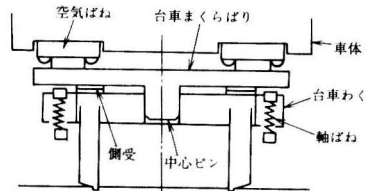
- (5) 全側受の車体支持方式としたこと。

- (6) 車輪部にブレーキ用ディスクを取り付けたこと。

- (7) 車輪の滑走、信号回路のしゃ断等をなくすため、\*車輪踏面清掃装置を取り付けたこと。

等があげられる、その外観および車体荷重支持方式を図に、主要諸元を次に示す。

新幹線車両の車体荷重支持方式



形式	DT 200
まくらばね上荷重(定員時)	20.5 t
軸距	2,500 mm
車輪直径	910 mm
最大長	4,180 mm
最大幅	3,160 mm
軸箱中心間距離	2,100 mm
空気ばね上面取付部標準高さ	1,170 mm
駆動方式	平行、可とう歯車継手 1段減速歯車式

ブレーキ方式 空気-油圧-ディスクブレーキ重量(主電動機も含む) 約9.7 t

各部構造の概要は次のとおりである。

側ばり・横ばり等の台車わく主強度部材およびまくらばりは、厚さ9mmの鋼板をプレス成形し、溶接組立てした構造である。台車わく中心に心ざら(皿)があり、その両側に側受が取り付けられている。

IS式軸箱装置の輪軸に対する支持弾性、特に前後方向は相当強くしている。板ばねの応力が高くないよう、形状・取付部の構造が配慮され、板ばねの取付部に摩擦板を用い、組立調整の簡易化をはかっている。

軸ばねはウイング式で、そのばね定数は板ばね・ゴムブッシュとも含めて1軸箱当り約130kg/mm(0.95mm/t/car)である。まくらばねの上下方向ばね定数は約50kg/mm(5mm/t/car)、横方向のばね定数は約35kg/mmである。ダンパは軸ばねに対して上下方向用、まくらばねに対して左右方向用が取り付けられている。

ボルスタアンカ取付部のゴムを球形二つ割りとし、こじりを